

小学校

s 4-9

角の大きさ

4 学年

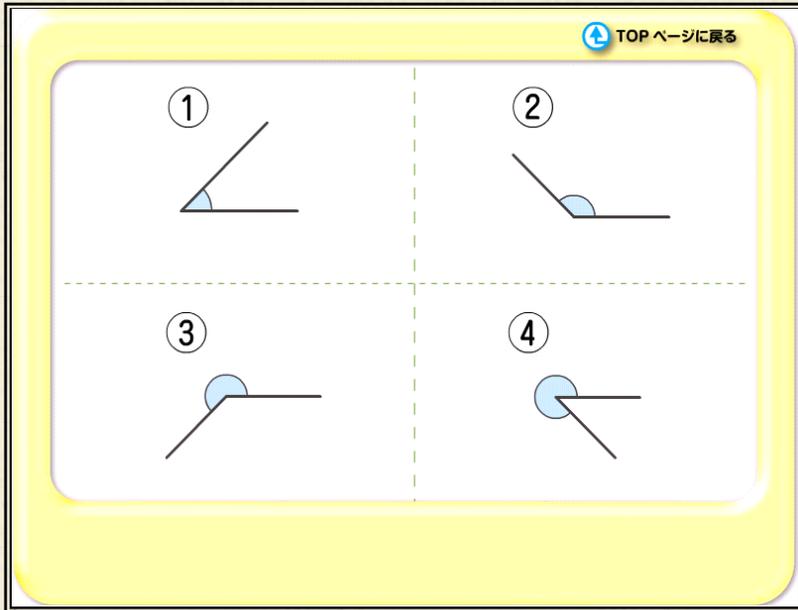
【ねらい】

角の大きさについて単位と測定の意味を理解する。

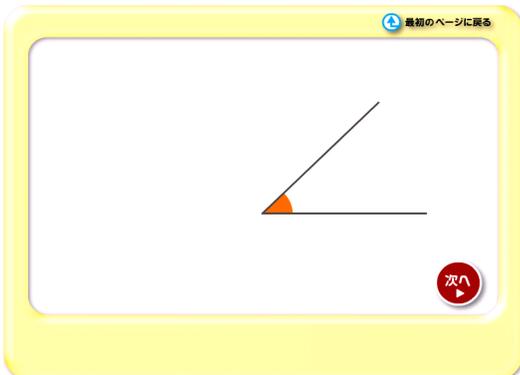
【特徴】

- ◇ クリックすると回転の角としてその大きさを表示することが出来ます。
- ◇ 分度器は、最初必要な目盛りだけが表示され、追って全部の目盛りが表示されるようになっています。

【関連する単元】



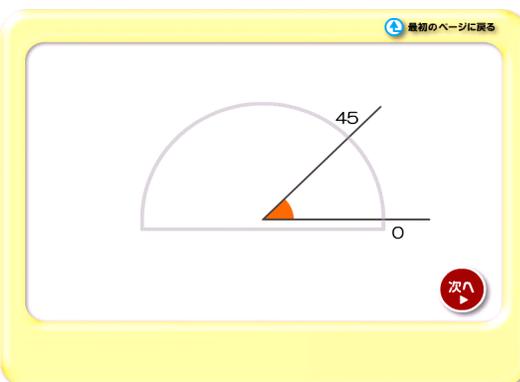
【活用場面】 算数的活動の後の検証



回転の角として量をとらえさせることに活用できます

角は時計と反対回りに次第に増えていくように見せています。量としての角の大きさをとらえさせることができます。

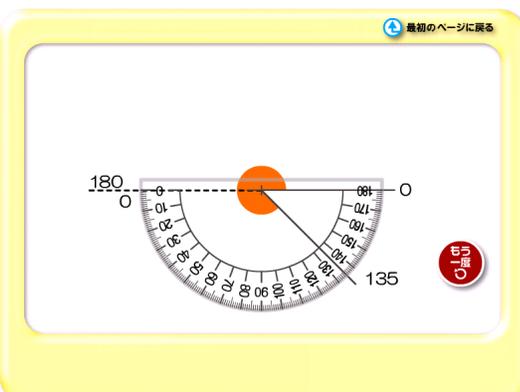
- ◇ 算数的活動で、児童一人一人に回転の角を、学習具を使って操作させます。
- ◇ その後、画面で角度は二辺の開きの大きさであることを確認させます。
- ◇ 「次へ」をクリックすることで、辺がゆっくり時計と反対回りに回転し、その間の角の記号が大きくなっていくことを見せることができます。



分度器の目盛りの読み方を回転の角と結びつけて指導できます

分度器の目盛りは両方向から打たれており、よみ間違いが多くあります。どちらからよめばよいのか、視覚的にとらえさせることができます。

- ◇ 「次へ」をクリックすると分度器の輪郭だけが表示されます。
- ◇ 辺が回転し、角を表示していきます。
- ◇ 辺の止まった位置の角度だけが表示され、その後、分度器全体の目盛りが表示されます。このことにより、分度器の目盛りをどちらから、どの位置までよめばよいかを理解させることができます。



180° を超える角度を量としてとらえさせることができます

180° を超える角度についても、量感を大切に指導できるよう、360° からの減算法を用いず、180° からの加算法で示しています。

- ◇ 辺は時計と反対方向に回転します。
- ◇ 180° に達すると一旦分度器が現れ 180° を測定します。
- ◇ その後、辺はさらに回転し、分度器は反転して 180° を超えた部分を測定します。
- ◇ 加算法のため、その角の量としての大きさをとらえることができます。